

発題「孫文の平和思想」を受けて

東北ヘルプ 川上直哉

2014年10月23日(木)

ソウル・中央大学にて

添付ファイルの原稿を提出し、ハングルにも訳されていますが、この原稿は用いません。

というのも、私の原稿は、私の役割が決まる前に書いたものだからです。今日の私の役割は、孫文の平和思想についてのご講演に応答すること、とされており。

どうぞ、おゆるしてください。

今日、開会式と基調講演を通して、深く感じたことがあります。基調講演では、イザヤ書 19章の末尾が引用されました。

19:23 その日、
エジプトからアッスリヤに通う大路があつて、
アッスリヤびとはエジプトに、
エジプトびとはアッスリヤに行き、
エジプトびとはアッスリヤびとと共に主に仕える。

19:24 その日、
イスラエルはエジプトとアッスリヤと共に三つ相並び、
全地のうちで祝福をうけるものとなる。

19:25 万軍の主は、これを祝福して言われる、
「さいわいなるかな、
わが民なるエジプト、
わが手のわざなるアッスリヤ、
わが嗣業なるイスラエル」と。

エジプト・アッシリア・イスラエルの三国のように、日中韓の三国が相並んで祝福を受けること。この気宇壮大な聖句の精神を想起しつつ、韓国語・中国語・日本語の歌が歌手によって歌われ、最後は、英語のアメージンググレイスの奉唱がありました。そうして、開始早々、私たちは、心を一つにすることができました。

聖書と讚美歌と少しの英語で心が通じ合うことの素敵、ということです。それこそ、シャロームの奇跡、でしょう。

その後の、午前のセッションで、私たちは、平和、シャロームの意味を、学びました。単純だけれど、包括的な事柄であるということ、深く、理解させていただいたわけです。

午後の最初のセッションでは、安重根が主題となりました。深い感慨を覚えて、拝承した次第です。というのも、私は、宮城県の仙台市から来たからです。宮城県には安重根の記念碑と墓があります。私は、何度も、そこを訪れました。また、安重根のいた宮城刑務所で、私は今、チャプレンをさせていただいております。

さて、今、私は、隣県である福島県に、毎週、通っています。そして、平和について考え直しています。福島で、私は、まるで戦争に巻き込まれたような気がするからです。もちろん私は、戦争を知りません。しかし、祖父母から聞き知った事柄は、きっとこうだったのだらうと思わされているのです。

戦争、といいました。それは、福島においては、あるいは、核を巡る事柄にお手は、時間を巡る闘争なのだと思います。将来世代から、富と土地と幸福を奪い取ろうとする戦争です。そこで「何もしない」ということは、未来世代への攻撃に参加することになるでしょう。だから、何かをしなければならぬ。そういうとき、私たちの国では、しばしば、D・ボンヘッファーが参照されます。同じように、この国では、安重根が参照されるのだらうと、そう想像します。

さて、孫文です。1924年に上海で「北上宣言」を行った、その宣言が、御発表の中心になっていました。その宣言の後、北京に向かう途中、孫文は、日本にわざわざ寄って、一つの演説をしました。1924年11月28日 神戸での「大亜細亜主義」です。今年はその90周年になりますから、神戸大学が主催して、11月29日にシンポジウムを行うそうです。

この演説は、日本人を喜ばせました。とりわけ、右翼の人々を、鼓舞しました。御発表にありました通り、それは、東洋の王道 v s 西洋の覇道、ということをはっきりと言い表したものでした。

それで、御発表を聞きながら、考えていました。東洋と西洋の対立、という時、土着化と植民地主義、ということはどう考えるか。韓国の教会が、土着化を巡る WCC の議論に触れて、激しく分裂したことは、痛みを以て思い出される事実です。しかし他方で、私たちの国においては、ある種の熱心な宣教師が、たとえば米国の文化に過ぎない何かを、キリスト教そのものとして押し付けている、そういう迷惑を、沢山蒙っていることも、事実です。

この問題には、もう少し丁寧な議論が必要な気がしてなりません。

そしてもう一つ。孫文が肯定した、「暴力による暴力の否定」という平和論です。それで、
でいいのかどうか。この問題は、今の日本の問題です。

「ヘイトスピーチ」を巡り、同じような罵詈雑言で抑え込もうとする勢いがあります。
結果としては、それが、成功しつつあります。他方で、「積極的平和主義」ということを、
安倍政権が打ち出しています。「九条」を持つ国の市民として、そのことを、私は恥ずか
しく思っています。

では、どうしたらよいか。

暫定的結論を申し上げます。

- ・たとえば南相馬市原町教会で、シャロームを宣言する時の疚しさ、不十分さ
- ・新しく展開している「戦争」の中で、「平和だ」という嘘
- ・1950年代以来の、東洋的なものをどう位置付けるかを巡る議論の不足
- ・暴力に寄らずには平和も作り出せない現実

そうした現実を前に、キリスト者であることの意味を見出します。私たちは、「キリエ・エ
レイソン」と歌うことが許される。深い悔い改めと神の業を見せていただくために、現場
に出て、矛盾に身を曝すことが許されている。

それで私は、添付ファイルに準備した結論と同じことを、この発表の結論として、今、
申し上げます。つまり、私たちが出会い、学ぶのであれば、互いの成功ではなく、失敗を
しっかりと見据えることだ、ということです。その失敗をどうやって神様が守ったかを見
ることだと思うのです。

以上でございます。